

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年前期	3	2	選択
担当教員			
林 章浩			
添付ファイル			
講義概要			
経営情報システムは、企業など組織のための情報システムの総称であり、流通業、製造業をはじめ多くの分野の企業が経営情報システムを活用して業務を行っている。一方で近年はインターネットビジネスが急速に進展しており、企業や組織だけでなく、消費者、社会全般のあり方にも大きな影響を及ぼしている。これに伴って、経営情報システムもまた個々のシステムとしてではなく、インターネットビジネス・システムの構成要素として相互に連携し活用される時代に入っている。 本講義では、インターネットを利用するビジネス全般を対象として、経営情報システムの活用形態や仕組みと、活用する側から見たシステムの要件定義について学ぶ。また、毎回の授業の中で随時、質問を行い指名した学生に回答してもらう。このアクティブラーニング（AL①）を通じて経営情報システムについての理解を深めることを狙う。 この科目は、情報システム開発分野の実務経験のある教員が担当する科目である。			
授業計画			
1 情報通信の歴史から見た時代背景 経営情報システムの定義、および現在のインターネットビジネスまでの発展の歴史について説明する。また、講義概要と教科書、参考書の紹介を行い、関連科目の中での本科目の位置付けを説明する（AL①）。 2 IC ソリューションを軸とした業界再編 経常 システムだと it システムを実現する中で主に3つのソリューションが考えられる そのうちの1つ IC ソリューションを軸とした業界再編を説明 3 機器を用いたソリューション 3つのソリューションのうちの2つ目 機器を用いたソリューション 4 情報セキュリティと個人情報保護 情報が公開されるにつれ 個人情報保護やプライバシーや セキュリティについて説明 5 東京ミッドタウンのソリューション 東京ミッドタウンの設計時点から 立ち会って参加した立場として 東京ミッドタウンで用いた近代的なソリューションを紹介 6 経営情報システムとインターネット 1995年の阪神大震災からその価値が認められた インターネットの用い方について説明 7 インターネットビジネスとは これまで行われてきた電子商取引からインターネットビジネスで拡大する流れを説明 8 ビジネスモデルとは ビジネスモデルとは 儲ける仕組みである。 インターネットビジネスにおいて儲ける仕組みを説明する 9 電子商取引のビジネス構造 エレクトコマースと呼ばれている 電子商取引のビジネス構造を説明する 10 情報システムのもたらす インパクト 情報システムが社会にもたらす インパクトを説明 11 電子決済 デジタルコンテンツ 電子決済として用いられる電子マネー、 その他のコンテンツとは何か 12 検索エンジン ビッグデータと呼ばれるように世の中に数多くのデータが溢れるようになった以上 今後必要になってくるのは 検索エンジンの有効利用を説明 13 データマイニング ビッグデータを用いて新しい知見を探す時に用いるデータマイニングの手法について説明する 14 インフラとセキュリティ 情報インフラを構築する際に考えうる セキュリティ と BCP を説明する 15 電子認証および 倫理と法律 電子商 不取引を行う上において守るべき倫理基準と法律を説明			
授業形態			
講義 アクティブラーニング：①:15回, ②:0回, ③:0回, ④:1回, ⑤:0回, ⑥:0回			
達成目標			
インターネットビジネスの概念や活用について理解していること。 既存の経営情報システムの改善提案や、新規システムの要件定義の基礎的な事項をまとめることができること。			
評価方法・フィードバック			
2回のまとめのテストと1回の小テスト80%（全て持ち込み不可）、中間時点でのレポート20%で評価する。 まとめのテストについては、毎回採点後返却し結果をフィードバックする。			
評価基準			
秀：100～90点（90%以上）、優：89～80点（80%以上）、良：79～70点（70%以上）、可：69～60点（60%以上）、不可：59点 以下（60%未満） ただし、レポート未提出の場合は不可とする。また、（ ）内は、達成目標に対する達成割合を示す。			

教科書・参考書	教科書：片岡信弘、工藤司、石野正彦、五月女健治「インターネットビジネス概論」共立出版 参考書：島田達己、高原康彦「経営情報システム」日科技連
履修条件	「経営工学概論」を履修していることが望ましい。
履修上の注意	・本講義は、静かな環境で勉強意欲のある学生諸君のためにある。私語は厳禁する。度重なる注意を無視した学生は、最終評価点で大幅な減点を課す。
準備学習と課題の内容	授業計画に記載されている「準備学習」と「課題」（合計3時間）を必ず行うこと。教科書の演習問題を活用して復習を行い、内容をよく理解しておくこと。小テストや授業の演習については、フィードバックの説明を活用して理解を深めておくこと。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:40%, 思考・判断:20%, 関心・意欲:10%, 態度:10%, 技能・表現:20%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	